

令和5年7月21日
茨城県都市整備課

<弘道館・茨城県立図書館共同開催>

「紙芝居とお話で伝える 水戸空襲と弘道館」を開催します

弘道館は7月29日(土)に、茨城県立図書館で「紙芝居とお話で伝える 水戸空襲と弘道館」を開催します。水戸空襲を「次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ」による紙芝居と朗読、元水戸市立博物館長による講演により、子供から大人まで分かりやすくお伝えします。

つきましては、当日の取材についてご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■開催日時

令和5年7月29日(土) 13:30~15:15 (開場13:00)

※イベント終了後に、現地(正庁玄関・孔子廟・八卦堂)の案内解説(希望者のみ)を行います。

■会場

茨城県立図書館(2階視聴覚ホール) 水戸市三の丸1-5-38

■内容

- 紙芝居 ある紙芝居屋の物語~それでも黄金バットはやってくる
次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ (40分)
- 朗 読 新川和江「にがく、酸い青春(『少女たちの戦争』より)」ほか
見澤淑恵・次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ代表 (10分)
- 講 演 深夜の水戸に爆弾の雨~その時市民たちは…
玉川里子・元水戸市立博物館長 (30分)
- 解 説 弘道館にのこる水戸空襲の傷跡
小塚のり子・弘道館主任研究員 (10分)
- 講師プロフィール

【次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ】

朗読家の見澤淑恵を中心に、茨城大学紙芝居研究会が制作し上演してきた戦争の紙芝居3部作を継承しながら、戦争を風化させないよう戦争・平和・命などをテーマにした朗読会を開催し、戦争を体験したことのない世代へ、戦争を伝える活動をしている。

【見澤 淑恵】

朗読家、「次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオリーブ」代表、
(公財)茨城県教育財団理事、第16期茨城県生涯学習審議委員、社会教育委員

【玉川 里子】

元水戸市立博物館館長



■『ある紙芝居屋の物語～それでも黄金バットはやってくる～』あらすじ

1945年、昭和20年8月2日未明。茨城県水戸市の市街地は、B29による空襲で火の海と化していました。一人のおじさんは、迫り来る熱気を背中に感じながら、生き残るために走り続けています…。

水戸空襲の場面から始まるこの物語は、一人の紙芝居屋の「おじさん」の目を通して見た「戦争」のお話です。

「黄金バット」に「明智小五郎」、子どもたちはアメを片手に、悪を倒すヒーローの活躍する紙芝居を楽しみに、公園に集まって来ます。しかし、戦争が始まると国の検閲を通った「国策紙芝居」しか上演できなくなり、紙芝居は、子どもたちが「お国のために」戦える、立派な国民になるための教育手段として利用されるようになったのです。

紙芝居を見て「兵隊さんになりたい」「悪い奴は殺していい」と言う子どもの姿を見て、おじさんは悩み始めます。

「子どもを戦場に送るような紙芝居をやっているのだから。子供を人殺しにしているのだから」と。

そしてとうとう紙芝居を辞め、生活のために兵器等を作る工場で働き始めます。戦争はますます激化し、ついにおじさんたち一般市民をアメリカによる爆撃が襲います。



おじさんは、火の海の中で見知らぬ子供を、身を呈して守り、ひどい火傷を負いますが、命は取り止め、終戦を迎えます。

ある日、おじさんは空襲の爪痕が残る空き地で、拍子木を鳴らし、紙芝居を読み始めます。すると、1人、また1人と子供が集まってくるのです。焼け落ちて何も無くなった街の片隅で、「黄金バット」の紙芝居が始まるのでした。

■弘道館に残る空襲の傷跡



孔子廟は空襲により正面の戟門(写真左)を除いて焼失し、焼け跡から孔子廟の四方を守っていた鬼龍子(写真右)が発見されました。

※焼け残った鬼龍子は、展示室で展示しています。

八卦堂も空襲により焼失し、中の弘道館記碑も大きな損傷を受けました。

正庁の玄関にも焼夷弾により火がつきましたが、地元の人の必死の消火活動によって焼失を免れました。現在も玄関にはその焦げ跡が残っています。

■お問い合わせ先

弘道館事務所

茨城県土木部都市整備課

担当：萩野谷・小唄 (TEL:029-231-4725)

担当：小松崎・御手洗 (TEL:029-301-4660)